

アートマネジメント分野での人材育成について

(社)企業メセナ協議会 若林朋子

■アートマネジメントとは？ 【arts management/arts administration】

- 芸術と社会の出会いをアレンジすること (William Byrnes ウィリアム・バーンズ)
- 社会において芸術をうまく成り立たせるためのシステム (伊藤裕夫)
- 芸術・文化と現代社会との最も好ましいかかわりを探求し、アートのなかにある力を社会にひろく解放することによって、成熟した社会を実現するための知識、方法、活動の総体 (美山良夫)
- 芸術運営。広義には芸術と社会の接点を開発し、芸術の社会展開をはかること。狭義には、アートに関わる事業の運営、アーティストの芸術活動の管理、芸術団体の組織経営、文化施設の管理運営、そのために必要な知識や技術のこと。芸術文化関連分野でのファンドレイジング(資金調達)やマーケティングのスキル、芸術団体の健全な組織運営のためのノウハウ、関連分野の法政策や経済・会計の知識など。ただし、明確な規範があるというよりもむしろ、社会的・文化的背景などによって、芸術運営の方向性や方法論は決定づけられる (企業メセナ協議会)

■アートマネジメントの役割/なぜ、その役割を推進する必要があるのか？

★誰にとって、どのような場面で重要なのか？

ex. 「文化振興の主体」: 国・行政・企業等、「創造の現場」: 芸術関係者・芸術家、「享受・参加者」: 市民、「社会」等

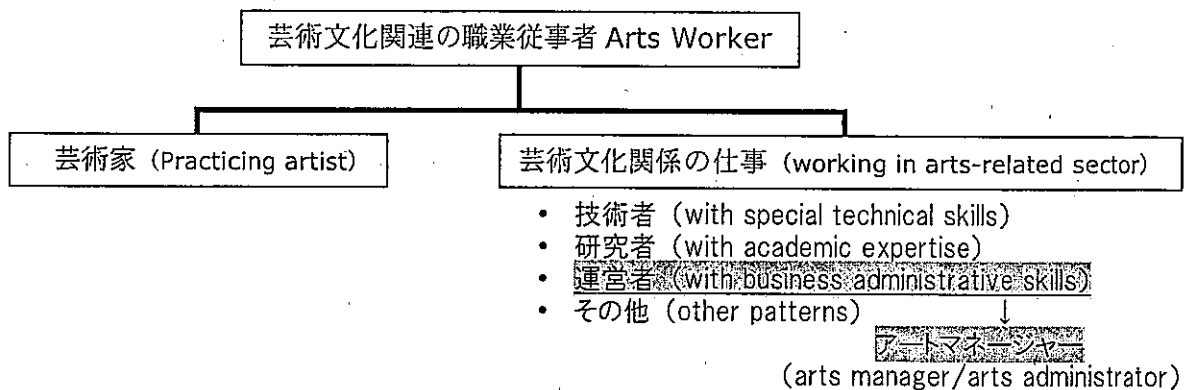
- 芸術文化政策や振興施策を個々の現場に落とし込む。
- 公立文化施設の効果的な運営、ソフト開発に取り組む。
- 公的資金(税金)、売上等を芸術文化に拠出することの説明責任を果たす。
- 芸術文化へのアクセスを阻害する諸要因(地理、経済、物理、情報、心理的障害)の解消を担う。
- 芸術文化の社会的な意義や役割、情報を、社会にわかりやすく伝える。
- 創造された芸術を知財として保護していく。
- 同時代芸術を発掘・峻別・育成・紹介し、後世に残す。伝統文化、文化財や文化遺産の今日的意義を検証し継承する。
- 市場経済になじみにくい芸術文化をうまく成立させる(非営利芸術の効果的経営)。
- “つなぎ手”、“翻訳者”として、芸術作品や芸術家を社会に紹介する。社会との橋渡しを担う。
- 芸術文化を真に理解する市民を増やし、文化的に成熟した社会をつくるための中間支援的な働きを担う。
- 芸術文化という切り口から、社会が持つ潜在能力を開発・向上させる。



多様化する社会状況・芸術文化環境のなかで、芸術文化の創造・振興を推進し、
その品質維持・向上・継続的な改善をはかるための
PDCA(計画:plan、実行:do、評価:check、改善:act)のプロセスを担う。

■アートマネジメントにおける人材

• 職業的分類:



• 所属組織での分類:

- 1) 芸術文化団体(創造を担う団体 ex.劇団、ダンスカンパニー、オーケストラ)・・・制作担当、ディレクター etc
- 2) 文化機関、公共文化施設(各種機関団体、ホール、劇場、美術館)・・・プログラム・オフィサー、学芸員、プロデューサー、文化振興課担当 etc
- 3) 中間支援組織、サービス・オーガニゼーション・・・プログラム・オフィサー、プランナー、コーディネーター etc
- 4) その他 of. 個人・・・アーティストマネージャー、画商 etc

• マネジメントレベルでの分類:

理事、ディレクター、プロデューサー、マネージャー etc

• 機能での分類:

企画・運営、制作、マーケティング、ファンドレイザー、財務、法務、広報、渉外、人事、会員対応、施設担当

■人材育成の現状

- アートマネジメント教育: 「Education(教育)」と「Training(実習/訓練)」の未分化
- 高等教育: アートマネジメント関連科目・講座数は約 120。増加傾向にあるが、専任教官を配置した総合的カリキュラムを組む専門学科、学部は少ない。
- 公的機関のアートマネジメント研修
- 民間のアートマネジメント講座
- 現場実習・研修: インターン
- “ハンズ・オン”、オン・ザ・ジョブ研修: 働きながら身につける

★政策との呼応、現場のニーズとの乖離

■求められる人材像

※情報源：急な坂スタジオ「マンスリーアートカフェ」vol.4「卒業したけど、どうしよう…」アンケート(07.3.29)

- ・ 「判断力に優れている」
- ・ 「めげない」
- ・ 「アタマの切り替えが早い」
- ・ 「気配りができる」
- ・ 「複眼的に考えられる」
- ・ 「自分で状況を切り開ける」
- ・ 「運が強い」
- ・ 「自分で食っていこうと思っている人」
- ・ 「自分に自信を持って行動できる人」
- ・ 「語学ができる人」
- ・ 「関連する分野とその周辺全般に関してスペシャリスト(いずれそうなる素養を持った人)」
- ・ 「どんな状況にあっても、どんな予期せぬ変化に遭遇しても、どんな人と相対しても、自分の軸がぶれることなく、スマートに対処・解決してしまう人」
- ・ 「相手や周囲に不快な感情を与えるようなことを間違ってもしない人。柔軟性に富んでいながら、一本スジが通っている人」
- ・ 「極めて当たり前の感覚や意識をもつ“職人だけどスーツを着こなしている人”」
- ・ 「ミッションに対して意識の高い人」
- ・ 「複眼的に考えられる人」
- ・ 「バランス感覚に優れた人」
- ・ 「好奇心旺盛な人」
- ・ 「自分に責任の持てる人」
- ・ 「許容範囲の広い人」
- ・ 「実行力のある人」
- ・ 「アートが嫌いではない人」

★「スペシャリスト」というよりもむしろ、「プロフェッショナル」な「ジェネラリスト」。芸術分野に特化しない項目が多い。

■アートマネジメント分野でのニーズと課題

※情報源：アートマネジメント総合情報サイト「ネットTAM」、急な坂スタジオアンケート

【地域間格差】

- ・ 人材の首都圏集中
- ・ 雇用環境の地域差
- ・ 学びの場・機会の不均衡

【人材育成後】

- ・ 求職者と求人者のミスマッチ
- ・ R25、R35 問題

【その他】

- ・ 統計、指標の少なさ
- ・ 海外ネットワーク
- ・ プロフェッショナルとしての芸術文化関係職社会的地位の確立
- ・ 政策立案者と現場との乖離